

# 2025 学校評価公表シート

認定こども園岩見沢聖十字幼稚園

## 1、園の教育目標

<ul style="list-style-type: none"> <li>・あかるい子ども</li> <li>・元気な子ども</li> <li>・かしこい子ども</li> <li>・やさしい子ども</li> </ul>	<p>聖書の言葉に親しみ、苦しいときや悲しいときにこそ、くじけずに進める子ども                  豊かな自然の中でからだをきたえ、こころもからだも芯から粘り強い子ども                  さまざまな文化に触れ、行事をつくる体験から学び、自分たちで考え行動できる子ども                  悲しんでいる人、困っている人に共感できる優しい子ども</p>
---	--

## 2、本年度に定めた重点的に取り組む目標や計画

<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの育ちを支える園を保護者と共に創る</li> <li>・教職員の力量向上と同僚性の醸成</li> <li>・子育て支援クラスの充実</li> </ul>
---

## 3、評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>・園の教育課程は幼稚園の教育要領を踏まえ、園の教育理念・教育目標を基に編成している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園の教育理念であるキリスト教の精神を大事にし、一人一人がそのまま愛され育つような保育を目指し、新しい幼稚園教育要領の改訂・施行を受けて、「非認知能力を育む自主的な遊び」ができる環境整備を大きな柱として進めている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児期の発達にふさわしい生活を展開できるように指導計画を作成している。</li> </ul>	<p>今年度も「子どもの主体的な遊び（学び）を大切する保育」について、担任および支援の先生方が相談を重ねながら実践を深めることができた。関連して、毎年招いている保育環境の講師から、今年も年間3回にわたり、環境整備について職員と保護者などが、実践を通して学ぶことができた。今年度から満2歳児の受け入れも始まったが、「自分で選ぶ」「自分で決める」「自分でやってみる」経験をさせ、高低差のある園庭で自然の素材（土・水・砂・木・花・火・野菜・果物など）に触れさせながら遊んだり、絵本の世界で想像力を育てることに力を入れてきた。</p> <p>年度ごとに子どもたちの特性は違うが、自由に選んだ活動に夢中になる子どもたちは、情緒が安定し、陽気で親切であり、職員もよく話し合いながら総合的に子どもたちを見つめ、子ども自身に考えさせる指導が目立っていた。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全で清潔感のある環境構成をしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園庭の遊具はほとんど木製で、遊具の周囲の土は常に腐葉土をすき込んでふかふかにしているため、怪我がとても少ない。毎朝の園庭チェックを必ずしており、危険なものが落ちていないか、蜂や有害な毛虫、動物のフンやカビなどがなければチェックしている。また、すべての保育室に成長に見合う設計のロフトを設置したことにより、遊ぶための床面積が増え、ゆったりと安全に過ごすことができている。その年度の子どもに合わせて、動線を整理するなどしながら安全を確保している。</li> <li>・全国的に危険木に注目が集まっているが、本園でも10メートルを超す古い松の木をすべて伐採した。これにより、雪の重みで枝が折れて落ちるなどの事故は防ぐことができた。</li> <li>・この冬は、何十年に一度という雪の少なさだったが、遊び環境などにはそれほど悪い影響もなく、安全が守られた。また、今年もスズメバチや毒蛾虫、クマの出没、夏の猛暑など、自然の脅威に対しては、その都度情報交換を密にしながら全職員で対処し、大きな事故やけがはなかった。しかし、特にクマに関しては、職員がどのようにすれば園児を守れるのか重大な課題となっている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児一人一人の姿を受け入れ、その子の良さを認めるよう心掛けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配置基準数を超えて教職員を多く配置しており、情報共有する時間を設定しながら、チームとして子どもたち一人一人の保育にあたることができた。日々の反省会や、学期ごとのケース会議などを通して、全職員で全園児の保育に関わる意識を持った。また、特別支援教育の必要な園児に対する指導方法の研修や、関係機関・病院などへ保護者と同行するなどして、保育方法の改善を図っているが、年々、市からの関係会議の呼びかけも増え、効果的なアドバイスをいただきながら日々実践している。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者との信頼関係を築くように努めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人懇談、送迎の時間、お便りノート、電話連絡、園からのお便りなどで園児の様子や園の活動を保護者に伝える努力をしている。また、ホームページを充実させ、日々の保育の様子を伝えている。預かり保育「のはらクラブ」でも、今日の保育の様子をホワイトボードに描いて玄関に掲示するなど工夫をしている。保護者の皆さんも何かあれば担任によく相談して下さり、共に子育てに関わらせていただいている。</li> <li>・また、昨年度好評だった土曜日の園庭開放は、今年も希望者が多かったため、午前（満3歳・年少）と午後（年中・年長）に分けて、二日開催した。自分子どもだけでなく、よその子どもと遊んだり、親同士で和やかに交流する場面などが見られ、とても良かった。子育てを共に楽しんでいく場を今後も提供していきたい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の自然や社会とのかかわりを持つように努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度も市内の農園でブルーベリー狩りや、森での活動「ネイチャーランド」や登山、そり遠足など、地域の自然の中で常に活動することができた。また、岩見沢農業高校の水田での田植えや稲刈り、高校生に教えてもらう花のアレンジメント、教育大学でのバルシューレ、地域講師によるリズム、サッカー、茶道、歩くスキー、近所の方に講師になってもらっての野菜作りなど、たくさんのお力を借りて保育活動が展開されている。</li> </ul>

<p>・保育者としての専門性を高めるための各研修会に積極的に参加する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育に関しての法人内研修「ぶどうの木」（ZOOM開催）に年4回参加し、実践レポートを通して積極的に学び合うことができた。また、特別支援教育に関わる市内や道内の多くの専門家とつながり、定例会議や相談活動を行うことができた。</li> <li>・遊び環境に関する研修は、東京から2名の専門家を招いて、年6日（3回×2日）の研修とワークショップを保護者とともに行うことができた。</li> <li>・道内の聖公会施設職員研修会では、道内9園から岩見沢へ集まっていただき、学びを深めた。ほかにも道内各地で行われる公開保育、岩見沢私立幼稚園連合研修会などに積極的に参加した。</li> <li>・聖公会保育連盟の全国研修会が沖縄で行われ、本園から2名が参加し、多くを学ぶことができた。沖縄の園庭研修も自主的に行い、園職員に還流した。</li> </ul>
<p>・人事管理・財務管理を適正に行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二人担任と支援教諭の学年部会チームが重要な役割を果たしていた。勤怠管理システムとミドルリーダーからの声掛けもあり、定時退勤できるようになっている。学年チームで相談しながら年休を取得したり、業務の分担でお互いの健康を守るなど、働きやすい職場に近づいてきていると感じる。預かり保育も保育士の確保ができ、チームで進めることができた。バス・校務担当職員の退職も無事、後任に恵まれた。園長・教頭・主任・副主任で行う運営委員会も必要に応じてこまめに関き、機能していた。今後も組織的な動きをより進めていきたい。</li> <li>・財務管理は、公認会計士により、適正に運営されていると認められている。今年度は大きな工事や修理はなかった。人件費では、特別支援の必要園児のために教職員数が多くなっているが、管理運営費補助金（特別分）で補填した。また、今年度も保育に係る人の処遇改善が行われたおかげで、職員の処遇は改善されている。</li> </ul>

#### 4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

<p style="text-align: center; font-size: 2em;">A</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園教育要領で幼稚園教育の基本としている「自発的な活動としての遊び」を最大限引き出す環境整備を通して、日々行われる教育・保育に、教職員が力を尽くすことができた。そのことが保護者にも理解され、子どもたちの成長を喜んでくださる様子がアンケートに表れていた。</li> <li>・長年、課題となっていた教職員の超過勤務についても、小さな努力の積み重ねや協力によって、日々改善され、働きやすい職場になってきていることがアンケートにも表れていた。</li> <li>・全体を通して、保護者・教職員・園長・関係者評価において、Aと評価された。</li> </ul>
--	---

#### 5.今後取り組む課題

課題	具体的な取り組み方法
安全管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連絡事故等が起らないよう、ルールブックや連絡ツールを利用しながら、教職員・保護者が協力して、子どもたちの安全を確保していく。</li> <li>・各種感染症予防のための消毒や換気などを継続していく。また、園内環境整備を通して、挑戦できる遊具での不慮の事故が起きないように、毎日の安全点検を徹底していく。</li> <li>・防災では、園独自の火災・地震訓練やコミュニティ全体の防災訓練への参加など、実践的な防災訓練を続けていきたい。</li> </ul>
指導計画の見直し	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏の猛暑による思わぬ事故を防ぐため、夏休み期間を長くしたり、行事の時期や練習方法に工夫してきたが、今後もその年の状況に応じて指導計画を柔軟に変えていく。</li> <li>・基本的な計画を基にしながら、学年チームで、その年の子どもたちの興味関心を拾い上げ、より創造的な活動を展開していけるようにしたい。</li> </ul>
園内環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・老朽化してきている設備の作り直しなどを地道に進めていきながら、園内と園庭の環境整備と保育内容を連動させて、より子どもたちが自主的に活動を選択し、子ども同士が相談したり協力し合う活動に対応できる環境づくりを進めていきたい。</li> </ul>
園舎の改修・増築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て支援の会場として、牧師館を使用しているが、通ってくださる方が増えたため手狭になっている。また、水回りなどが古く、不便なので、改善していきたい。</li> <li>・狭いホール、園舎の水回り等の老朽化と、不足している保育室や収納場所などの解決のために、園舎の改築または増築の計画を具体的に話し合っていきたい。</li> </ul>